



北海道芽室町のスイートコーンの栽培面積は生食用・加工用合わせて約900haの広さを持ち、生産量は日本一。昼夜の温度差が大きく、さらに4年輪作という栽培サイクルでつくりだす健康な土壌がとびきりの甘さを育

みます。

「小さな頃から手伝いをして、きっと親父の仕事をやるんだろなあ、とっていました」。大学を卒業し、JAで臨時職員として4年の勤務を経て両親とともに農業を営むのは河瀬貴光さん（43）。2000年に結婚、2人の子供を育てながら今日も朝4時からスイートコーンの収穫に家族総出で励みます。「今は、子供がうまいと言ってくれることが何よりもうれしい」と、自慢のスイートコーンをガブリと、その甘さを確認します。糖度は16度。それを保つために早朝に収穫し、傷まないように丁寧に手作業で箱詰めが行われます。

JAめむろの青果課では、管

内を丁寧に見回り、日々作物の管理に努めています。「職員の皆さんが見守ってくれるから私たちは農業ができる」「適度な距離感を持って生産者に接してくれるからJAはなくてはならない存在なのです」と続けました。

今日収穫されたスイートコーンは、6,500個。丁寧に箱詰め作業をし終えるのは12時過ぎ。愛情を注いだ畑での忙しい夏の日々が続きます。「農業は情熱のかたまり」、河瀬さんは懸命にこの大地で、畑を守る全てに感謝し、頑張っています。



食・農・地域の暮らしを支えるJAの存在意義や取り組みを紹介するJAグループ共通コンテンツ（JA新聞連『JA広報通信』にて提供中）。今年度は、「協同組合

とは何か」をテーマに毎月Q&A方式で解説します。JA広報誌への掲載等により、組合員や地域住民への情報提供資材として、ぜひご活用ください。

JAグループ 共通コンテンツ

知って納得JA

—協同組合の力—

Q JAの組合員って何をすればいいの？

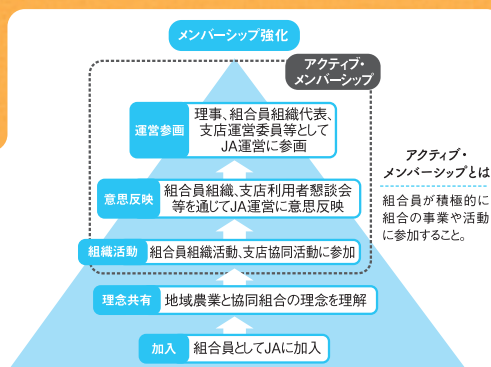
A JAの事業と活動に積極的に関わり、元気なJAを築くことが大切です。

JAは願い（課題やニーズ）を共有する組合員が集まって、組合員自らが事業と活動を通じて願いをかなえることを目的とする協同組合であり、組合員がJAの主人公です。

また、JAの主人公である組合員は、みんなで話し合っで決めたことを実行し、組合員組織に参加して活動を活発化するなど、組合員相互の発展のために重要な役割を担っています。組合員はJAの運営に積極的に関わるとともに、仲間づくりに努め協同の輪を広げましょう。

JAグループでは第27回JA全国大会でアクティブ・メンバーシップの運動を決議しました。組合員が元気な主人公となることで、より元気なJAを築きましょう。

（監修＝広島大学 助教 小林元）



組合員の役割

みんなで決めたことを実行する。

組合員組織に参加し活動を活発化する。

JAの運営についてすすんで発言し、建設的な提言をする。



家族ぐるみでJA事業を利用する。

仲間づくりに努め、協同の輪を広げる。

耕そう、大地と地域の暮らし。